



おっ、2月だ。新一年生の保護者説明会が来週9日、来年度が近づいている実感があります。

### みんなのためなら本気になれる

1月は、長縄跳びの練習にいそしむ学級がたくさんありました。最高記録が出るたびに歓喜が上がり、逆に失敗に歯を食いしばる姿も。記録が伸び悩み、練習をしたくなくなる時もあったでしょう。長縄跳びだからこそ、自分の力だけではコントロールできない場面も多く、歯がゆい思いもしたことだと思います。



それなのに、早朝からの練習。

それだから、記録を更新した時のひとしおの喜び。

それぞれ学級独自のドラマが繰り広げられていました。

しかし、なぜこれだけ頑張ることができるのか。なぜ、これほど本気になれるのか。

私は、「みんなのために」がポイントだと思っています。

私の友人に、朝のお弁当を頑張って作っている人がいました。高校生の我が子のためです。思春期の息子、そんなにも喜んでくれないし、時には「あ～弁当じゃなくてお金ちょうだい。パンのほうがいい」という無慈悲な言葉も浴びせられたとか。それでも、味はさることながら、<sup>いろどり</sup>彩や栄養バランス、食べ盛りの早弁用おにぎりも追加しながら、3年間を完走。友人は、そんな話をしながら、自身はコンビニ弁当を食べている。あれ？

「いや～、自分の分となると、もう作れませんねえ」

どうということ？

「息子のためと思えばこそ、朝も4時半に起きて仕事前の気力を振り絞って作ってきたんだけど、自分のためだけに朝起きはできない。そんなもんですよ」

う～ん、弁当作りという意味では同じなのでは？

「ずいぶん違うんだよね。同じ作業だけど、何のためにやっているのかで。この子の何者かになっているという実感が、実は弁当作りにはある。やっている意味が生まれる」

なるほど。納得。意味か。

どうやら、生き物の中で人だけがもつといわれる「意味」というものが大きく作用しているようです。そして、その意味は自分だけの世界では生まれ得ない。だから、人は集団の中でしか生きてはいけなく、みんなのために自分がやっている実感があれば、そこに意味が生まれ、物語が紡ぎだされるのだと。

どんな小さなことでも、その先にみえる人とのつながりに、私たちは生きる意味を見出し、物語が生まれてくる。みんなのために取り組むことは、やはり自分のためでもあるなあ。

長縄跳びに全力で取り組む子どもたちを見ながら、その物語の熱さに感動しつつも、私自身がみんなのためにやれているのかという焦りを感じて、つい献血の予約をしてしまいました。